



大学における図書館サービス  
と図書館員のこれから

竹内 比呂也 (千葉大学)

平成21年度国立大学図書館協会シンポジウム  
(西日本会場) 基調講演

+ 本日の筋書き

- 大学をとりまく環境の変化
- 利用者像の変容
- 図書館サービスの方向性
- 大学図書館員の役割
- まとめ

国立大学図書館協会シンポジウム (西日本会場) 09.11.20

+ 議論の出発点

- 大学図書館は、大学における学生の学習や大学が行う高等教育と学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤であり、大学にとって不可欠な機能を有する大学の中核を成す施設として、大学の教育研究に関わる学術情報の体系的な収集、蓄積、公開や教育研究に対する支援などの役割・機能を担っている。
- しかしながら、現在、我が国の大学図書館は、大学を取り巻く社会の高度情報化の中で、大学における教育目的の多様化と研究活動に対する社会的要請の変化と高度化に対するため、その機能を拡充し、高機能化、効率化を図る必要に迫られている。
- また、大学全体の管理運営費が削減される状況の中で、人件費も含めた大学図書館運営費も例外ではなく、非常に厳しい状況にある。

(科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会「大学図書館の整備及び学術情報流通の基盤について」(審議のまとめ)、2009年7月)  
国立大学図書館協会シンポジウム(西日本会場) 09.11.20

+ 大学をとりまく環境の変化

教育 / 研究 / 情報環境

国立大学図書館協会シンポジウム (西日本会場) 09.11.20

+ 教育をめぐる変化

- 学生の変化
  - 大学全入時代
  - グーグル世代
    - 従来とは異なる情報行動? (後ほど詳しく)
  - 留学生の増加
    - 「グローバル30」
      - 学生10人に一人は留学生という時代がくるか?

国立大学図書館協会シンポジウム (西日本会場) 09.11.20

+ 教育をめぐる変化

- 大学教育に対する考え方の変化
  - 中教審答申『学士課程教育の構築に向けて』(2008.12)
    - 「学士力」: 自立的な課題解決能力の重視
    - 「単位制度の実質化」: 事前、事後学習の重視
    - 「教育方法の改善」
    - 「初年次における教育の配慮」

国立大学図書館協会シンポジウム (西日本会場) 09.11.20

## + 教育をめぐる変化

7

### ■大学院の変質

- 大学院が研究職のみを養成する場では完全になくなった
  - 専門職大学院
  - 通常の大学院における高度職業人の養成の方向
- 大学院定員の削減など従来の大学院重視の流れの修正

## + 教育をめぐる変化

8

### ■大学経営環境の変化

- 国立大学の法人化
  - 大学間格差の拡大（財政基盤も含む）
- 公立大学の法人化
  - 国立大学と同じような道をたどるのか？
- 一部私立大学に見られる「経営合理化」
  - アウトソーシングの増加
  - 大学間格差の拡大

## + 教育をめぐる変化

9

### ■教室は相変わらず唯一の教育の場か？

- 遠隔教育（e-learning）

## + 研究をめぐる変化

10

### ■競争的資金の増大

- このことは、研究基盤整備の進捗を意味しない

### ■国際動向

- 学術研究における日本の国際的地位は不動か？
  - 中国、インドの台頭

### ■電子ジャーナル利用の定着

- SCREAL調査（2007）（後ほど詳しく）

## + 情報環境をめぐる変化

11

### ■インターネットは普遍化

### ■電子化の趨勢はもはやとどまるところを知らず

- 電子ジャーナル
- 電子図書（ただし、日本語の図書については英米に比べると大幅な遅れ）
- 国立国会図書館による電子化（127億円！）
- GoogleBookSearch（英米圏における出版物のみ？）
- HathiTrust Digital Library



## 利用者像の変容

SCREAL調査の結果／学生の満足度調査

## + 電子ジャーナル利用の定着

13

SCREAL2007年調査によれば

- 「電子ジャーナルなしではもはや研究は成り立たない」
- 直近に読んだ論文に関して、それを読んだ場所が図書館であると答えた人はわずか4.2%

## + SCREAL調査(2007)の結果

14

- 化学、生物学、医歯薬学の分野では、半数以上が電子ジャーナルを「ほぼ毎日」使っている
- 人文社会系でも電子ジャーナルの利用者は2001年調査の4倍以上
- 利用は年齢による差があまりない
- 電子的な文献は、電子的に発見される
- e-bookの利用も今後期待される

Source: SCREAL press release(2008)

## + 電子ジャーナルについての研究者の要望 (SCREAL, 2007)

15

- 自宅や出張先からも利用したい
  - シボレスへの対応は不可避！
- 古いものも読みたい
- よりシームレスな環境を！
  - ILシステムとの連携等

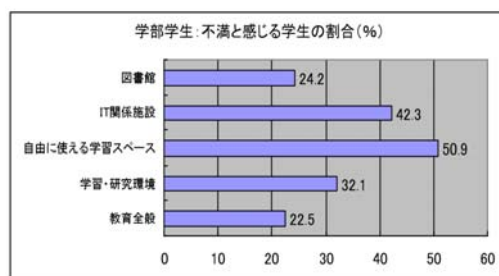
## + 学生像

16

- Google世代/Gen Z
  - 情報を探すにはまずGoogle
  - JISCのLibraries of the Futureのドキュメンタリーの学生の声
  - わが国の調査によれば（安蒜, 2009）
    - Google⇒Wikipediaという流れが見える。また、一つの検索結果を起点として、他のページを見てはまた元のページに戻ってくるという反復行動をしている。

## + 学生は図書館に満足しているか？

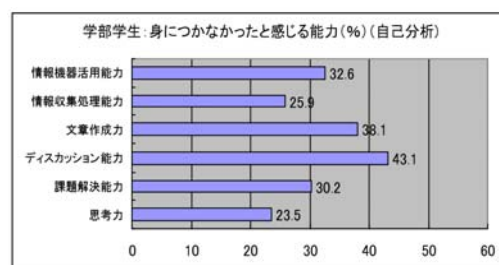
17



Source: 「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書(平成19年9月)より平成18年度卒業生調査

## + 学生は在学中に「情報リテラシー」スキルを身につけているか？

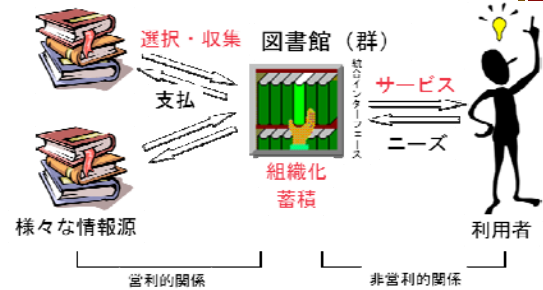
18



Source: 「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書(平成19年9月)より平成18年度卒業生調査

## + 大学図書館サービスの方向性

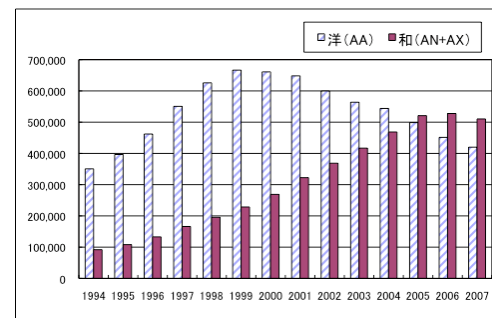
## + 図書館を中心とした 情報サービス理解の枠組み



## + このモデルを支えた大学図書館政策

- 少なくとも国立大学附属図書館は学術情報政策の中で発展してきた
- 1970年代に本格的に始まる学術情報政策
  - 外国雑誌を中心とする研究資源「分散共有」モデル
    - 外国雑誌センター館／文部省（当時）による予算措置
    - NACSIS-CATとILL（とほいうものの外国雑誌の総合目録の思想はかなり古い）

## + ILLの変容



## + 「研究支援」としての図書館

- ILLの劇的な減少など、学術雑誌の電子化は図書館の「コレクション」に依存しなくても情報ニーズが満たされるようになってきたことを示している。
  - ただし、大学間格差が広がるという新たな問題
  - 雑誌の価格上昇の問題について抜本的な解決策を我々はまだ見出していない
- 今後図書の電子化が進めば同じ道を辿ることは想像に難くない
- 研究支援という観点から見れば、研究者への直接的サービスはかなりニッチな領域にならざるを得ない。

## + 研究基盤整備の方向性

- ライセンシングで利用できる情報源の増大
  - ⇒ なるべく多くの図書館で、それらを利用できるようにする契約形態の追求
  - コンソーシアムに基づく契約—おそらくは個々の資料の選択的契約ではないはず。
  - これは必然的に図書館システムの在り方も変えるだろう。
    - ⇒ 利用者にとって使いやすい環境の整備
    - 認証システムによるシームレスなアクセス

## + 「学習」との関わりにおいてこのサービスモデルはまだ有効だろうか？

25

- 今の学生は、図書館を発見しているか？
- 今の学生は、図書館で何ができるかを知っているか？
- 今の学生は、図書館員に質問するということを知っているか？
- 今の学生は、図書館に満足しているか？

従来のモデルは有効であるように思われるが、新たなアプローチが必要。そもそも、このモデルにあてはまるようなサービスだけでよいのかという問題。

国立大学図書館協会シンポジウム（西日本会場）

09.11.20

## + 学習を支援する図書館

26

- 学習支援はこれまでも行われてこなかった訳ではない
  - 1960年代の岸本改革（東京大学附属図書館）
    - レファレンスルームの設置
    - リザーブ図書制度の導入
  - 1990年代以降の**情報リテラシー**の取組

これを今日、どのように評価するか？さらに学習支援において**図書館機能を拡大する余地はないのか？**

国立大学図書館協会シンポジウム（西日本会場）

09.11.20

## + 学習基盤整備の方向性

27

- 図書館という「場所」
  - ラーニング・commons：単に情報機器が並んでさえいればいいという発想は問題外であるが、図書館に十分なコンピュータ資源がないことはそれ以上の問題。
  - 「**図書館は蜂の巣のような場所**」--Sarah Thomas
    - 人の活動を見る。自分の活動を見せる。それによって刺激を受ける。

国立大学図書館協会シンポジウム（西日本会場）

09.11.20

## + サービスの方向性

28

- 「学生に望まれる学習支援」はどのような方向にあるのか？
- 授業との密接な連携
  - 「授業資料ナビ」（千葉大学）：授業単位のパスファインダーの作成、教員と図書館の連携の基づくもの。
- 「一対多」ではなく「一対一」になるようなサービスの提供
  - 例えば論文執筆を支援する**ライティング・センター**
  - これらの前提として、**図書館員は匿名であってはいけない。**

国立大学図書館協会シンポジウム（西日本会場）

09.11.20

## + 大学図書館員の役割

国立大学図書館協会シンポジウム（西日本会場）

09.11.20



国立大学図書館協会シンポジウム（西日本会場）

09.11.20

## + アメリカにおけるリエゾン・ライブラリアンの仕事の一例

31

- 学生のリサーチを支援
  - サービスデスクで
  - 事前にアポイントメントをとって
  - 電話、インスタントメッセージ、電子メールで
- リサーチプロジェクトについてのコンサルテーション
- 選書
- 利用教育...

## + 図書館員が図書館員であり続けるためには...

32

- 大学図書館員が持つべき「コアとなる知識・スキル」の再定義が必要
- 大学図書館員とは何ができる人か
- そうあるためには、どのような教育が必要か
  - ⇒ 「大学図書館員に必要な知識・技術の体系」(LIPER)
  - ⇒ 「大学図書館が求める人材像について」(国大図協人材委員会)
  - ⇒ 「ライブラリアンのコア・コンピタンス」(ALA)

## + ライブラリアンのコアコンピタンス (ALA,2008)

33

- 専門職の基礎
- 情報資源
- 記録された知識と情報の組織化
- (情報通信) 技術についての知識とスキル
- レファレンスと利用者サービス
- 研究
- 生涯学習と継続教育
- 管理と運営

大学図書館員としてこれで十分？

+

まとめ

+

35

- 大学図書館における直接的なサービスにおいては「研究支援」よりも「学習支援」が重視されるようになる。
- 図書館という場所は、たとえ電子情報源が増えても存在し続ける。
- 図書館員は従来とは異なる役割を担うようになる。

この前提を踏まえて、各館が個性を！

+

日本の大学改革は大学図書館から！  
がんばろう！図書館員！